

未来をつくる教育フォーラム2017 報告



2017年10月15日（日）開催

主催：一般社団法人自立学習推進協会
共催：株式会社日本コスモトピア

未来をつくる教育フォーラム2017 開催報告



2030年に豊かな社会を実現する教育をテーマに、10月15日（日）御茶ノ水ソラシティで「未来をつくる教育フォーラム2017」が開催されました。

学校や学習塾など教育関係者、子育て中の保護者など総勢250名以上の方々にご参加いただき、おかげさまでフォーラムは大盛況のうちに無事終えることができました。

このフォーラムは、「自立学習」について学び、教育現場の取り組みや目指す未来の教育の方向性を共有し、共に「未来をつくる教育」について考える場として開催いたしました。

#自立学習 #アクティブ・ラーニング #クリエイティブラーニング #主体的・対話的で深い学び

セミナー 未来をつくる教育を探る

■ 協同教育を土台としたアクティブラーニングの授業

和歌山県有田市立宮原小学校 前校長 藤井英之氏

協同教育は、文部科学省が新学習指導要領で掲げるアクティブ・ラーニングの視点による「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す学習方法であり、藤井氏が約9年も前から段階的にその取り組みを深めてこられました。



協同教育では、従来の先生が教えるという方法よりも、「自分たちで授業をつくる」ことをめざして、子どもたちが教え合い、学び合っていく授業を展開する環境を先生が作っていきます。「子どもと子どもをつなぐ」ことで成り立つこの授業は、子どもたちの主体性を引き出す仕掛けや工夫があります。

そして驚くことに、この取り組みを始めて3年目に、全国学力テストの算数で1位になり、その後もずっと上位を保っています。

■ クリエイティブラーニングとしてのプログラミング学習

MITメディアラボ博士研究員 村井裕実子氏

幼稚園で起こっている学びのなかで、次世代に必要な学びの要素がすべてつまっているよねとあって、園児が手を動かして、物を作って、いじくり回して、失敗して、でも楽しいからまたやり直して、……。そういう学びをサポートするための新しいテクノロジーを生み出している人たちが創り出した、代表的なプロジェクトの1つが「スクラッチ Scratch」だそうです。



この日唯一指導者向けに、クリエイティブラーニングのワークショップも行っていました。

大人たちが学び合いながら、そして刺激し合いながら、ほんとうに楽しそうにものづくりで感性を表現していました。まさにクリエイティブラーニングを体感、実践していました。



第2回子ども白熱会議

これからの未来を担う子どもたちが、自らの意見を表現するだけでなく、議論を通して「共にアイデアを創る力」を養う学びの機会として「子ども白熱会議」を開催しています。

今回も、台本なし！シナリオなし！ぶっつけ本番で、子どもたちが自分の思う『未来』を表現していきます。「社会で活躍する、とは？」というテーマ（本番当日発表）に対して、ビデオ審査を通過した全国選抜の6名が、それぞれの想いをぶつける場になりました。

- ・人の助けになることをすることで・・・
- ・子どもたちが夢を持てるように指導できる人になって・・・
- ・全ての人が納得するために、このような会議が絶対必要！

などなど、会場から拍手が起こると、子どもたちの議論はどんどん白熱していきました。

この子どもたちの熱い想いを、次の大人たちのパネルディスカッションにお渡しします！！



マルチステークホルダー・パネルディスカッション

本パネルディスカッションの最大の特長は、現役高校生・フィンランドの生き方キャリアデザイナー・教育現場のプロフェッショナルというまったく異なった視点をもったゲストたちが、「未来の教育」をテーマに様々な角度から深掘りすることです。



玉置 崇氏

稲場一浩氏

土橋夏子さん

千田ももこさん

藤井英之氏

ミラ クンプライネン氏

「これからの社会を生きる子どもたちには、どんな能力が必要になってきますか？」と、玉置氏。「デジタル化が進み、今までの職業と違った種類の職業に溢れた社会に必要なことは、なにより人間性です。」と、ミラ氏は語る。

「40人の生徒に対して一人の教師では、個々の生徒に対応できない。アクティブ・ラーニングが重要だということで、グループワークをしても中には遊んでしまう生徒がいて授業が全然機能していない。」と、現役高校生。「せっかくたくさんさんの生徒が集まるのだから、共同作業をどんどんさせて交流させた方が、自分と異なった考え方に多く触れることができる。必要なことは、チーム内で共有する1つの目標、ここなんです。」と、協同教育実践者の藤井氏は言う。

「人はみんな成長したいと思う欲求を持っている」藤井氏の意見に、稲場氏も続きます。さらに、「その子なりの課題を明確にし、やったことに対して認めてあげる環境をつくることで、自然と学習することが“楽しい”と思えてきます。大人が行うことは教育すること以上に、子どもたちに環境を整えてあげることですね。」と、自立学習を実践して成果を実感している稲場氏は言う。

また、ミラ氏は「チームの人たちと目標を共有することで、他人の感情を理解する力、ソーシャルスキルが身に付き、これを学ぶことで一層の学習効果が見込めそうです。」と話す。

「人は誰しもよりよく生きる力を持っている。それを引き出すのが教師の役割だ。」と、玉置氏は締めくくった。

ワークショップ

子どもたちの「わくわく」を引き出す体験型ワークショップが、並行して開催されていました。小学生対象のこのワークショップには、多くの親子連れの方々が来場され、笑顔があふれていました。

探究算数

- ・日常生活の1場面を切り取り、算数が活用できることを自然と理解させる
- ・子どもたちの疑問を深掘りし、考える力を養う

算数だけど、楽しかった！



アートクレイ

- ・都市鉱山から回収した銀をリサイクルしたものを粘土し、それを使って純銀のアクセサリーをつくる。
- ・できることを自然と理解させる
- ・環境問題や銀の性質について学ぶ



IT未来づくり

- ・ドローンや最新のITシステムなど、新しい未来をつくろうとチャレンジしている人たちの作ったものに実際に触れてみる
- ・自分たちが欲しい未来の技術をつくることを学ぶ



第2回子ども白熱会議プレップ

未来の教育について会議しよう！
小学2年生～4年生



教科横断型えいご

描いて、動いて、数えて、英語を使いこなそう！
世界の様々なフルーツを知ることを通して、
Keyとなるフレーズを学ぶ



ソーシャル感情スキル by Elama

「鳥の目」でじぶんと友達を観察してみよう！
フィンランド教育の実践とSocial Emotional Learningのアプローチ



誕生学

みんなのいのちの始まりを学ぼう！
生まれてきたことが嬉しくなると、未来が楽しくなる



忍者スポーツ？ パルクール

跳び箱の無限の可能性を体験しよう！
想像力や適応力を体を動かしながら鍛える

